

(二月のことば)

宗家

唱えよう 唱えよう

戒めの言葉

求むる心

鹿見島吟行会を一年ぶりの計画で行った。

一目目、現地のの方を含め三百名余で吟の講習会を行った。初め吟ずる人と、全ての人が真剣な姿勢で吟に臨んだ事に感動した。

西郷南洲の詩を吟じ、彼の魅力に迫った。  
諸本を繰く中で、郷中教育が印象に残った。各町内で年齢別に集まり、また後輩が先輩の元を訪れ学ぶ、武士としての心身の錬成の場、制度があったと思えばよい。

その中で基本となる教えが良い。

「いいしえの道を聞かしても唱えても、わが行いにせすは甲斐なし」  
「負けるな、嘘をつくな、弱い者いじめするな」

これを少年達は毎度唱和したのである。  
薩摩武士の矜持の原点を見る思いである。

その土壌の中から留に信頼され、更に苦難の道と乗り越えて、遂に日本を代表する大人物となった西郷南洲を思ったのである。

小ざら頭からの鍛練と唱え続ける事の強さを感じる。

私共には、「宗家信条 真善美」がある。現地の人が教本を見て、これは素晴らしいと、挨拶の中で話された。

吟が知らず、知らずのうちに、その世界に入っていくのを見て幸である。

平成三十年二月